

Q25a 全天 X 線監視装置による soft で大きく広がった構造の観測

木村公, 常深博, 北山博基 (大阪大学) 富田洋 (JAXA) 松岡勝, 杉崎睦 (理研) ほか MAXI チーム

国際宇宙ステーションに取り付けられた全天 X 線監視装置 (MAXI) はポイントソースのモニターを目的の主としているが、視野が $1.5 \times 90^\circ$ と広く、全天を観測するため、大きく広がった構造 (10° あるいはそれ以上)の研究にも適している。とくに SSC(Solid-state Slit Camera) は 0.5keV まで観測が可能で軟 X 線でのみ明るい diffuse な輻射が見えている。中でも、North Polar Spur(NPS), Cygnus Super Bubble(CSB) の、二つが SSC で感度の良い軟 X 線で非常に明るく光っている。これらは ROSAT 全天サーベイでも観測されているが SSC は比較的エネルギー分解能がよいため、スペクトル診断でその起源に迫れる。CSB は白鳥座にあり、軟 X 線では C の字の形をしている。また、その起源はまだよくわかっていないが、白鳥座にある OB アソシエーションからの星風によって形成されたと考えられている。SSC で得られた、CSB のスペクトルからは Ne や Mg 等の輝線が確認でき、アバundanceや密度を求める事ができた。今回の発表では、SSC のスペクトル解析でえられた、CSB や NPS の詳細を発表する。